

KANAGAWA



社団法人 神奈川県建築士事務所協会

URL <http://www.j-kana.or.jp/>

E-mail info@j-kana.or.jp

2012 年
2 月号

VOL.364



HP情報（会員ページ）

- 宅地造成等規制法の取扱基準について（神奈川県）
- 都市計画法の開発許可にかかる基準等の改正について（神奈川県）
- 「会員事務所の業務協力情報ネットワーク資料」の公開について



目次

- | | |
|--------------------------|---------------|
| ①② 建築探訪 | ⑫ 賀詞交歓会開催報告 |
| ③④ 今我々にできることは | 会員の広場 |
| ⑤⑥ 歴史的建造物を訪れて | ⑬ シリーズ建築Q & A |
| ⑦⑧ シリーズ ぶらり街並み散策 | 旅のクイズ |
| ⑨ シリーズ知って得する木造住宅の知識 (13) | ⑭ 事務局便り |
| ⑩ 委員長会報告 | 編集後記 |
| ⑪ 委員会活動報告 | |

被災された単位会の仲間へ全力の応援を !!

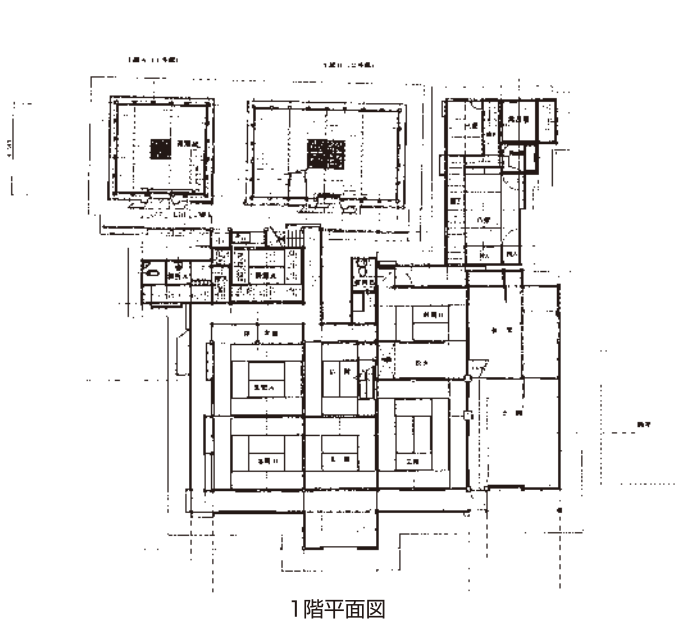
建築探訪

厚木市 古民家 岸邸

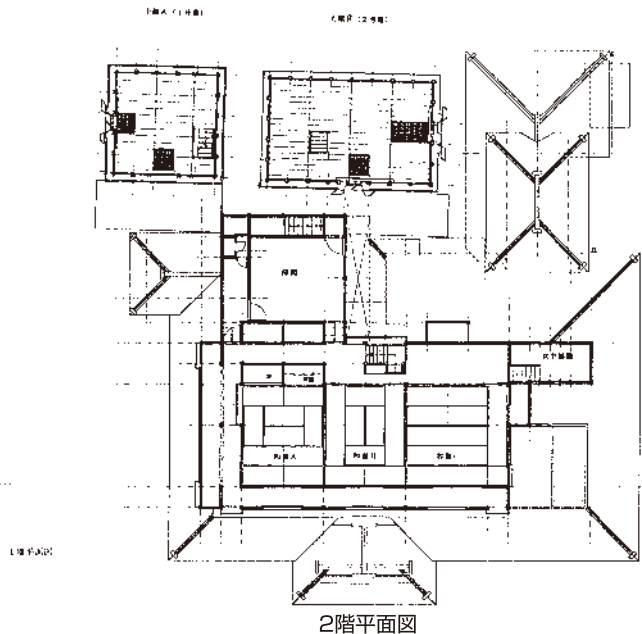
厚木支部 中原 成生

(本会 木造特別委員)

(神奈川県歴史的建造物保全活用推進員)



1階平面図



2階平面図

岸家住宅は広大な屋敷の入口に薬医門を構え、旧主屋、現主屋のほかに3棟の土蔵を有する。旧主屋は二階屋で、二階は寄棟造瓦葺、一階は銅板葺(現状は一部鉄板葺)で、建てられたのは文書資料から、明治24年(1891年)と考えられる。一階の間取は間口2間半の土間を持つ六間取を基本とし、土間背後と客座敷背後に角を張出す。

ナカノマには式台の変形した玄関が付き、二階への主階段はナカノマ背後の部屋に設けられる。妻側2室はともに客座敷で、表側の客座敷には奥行の浅い床の間および違い棚、裏手の客座敷には床の間・違い棚・書院が設けられている。土間寄りつきは15畳、5畳、7.5畳



の3室に分かれ、5畳の部屋には神棚を設け、7.5畳には明かり採りのための天窓が穿たれている。二階は10畳2室、12.5畳1室の計3室が横1列に並ぶ。そして客座敷背後には10畳弱の洋間が造られている。座敷妻側の10畳が客座敷で、床の間・違い棚・書院を備える。

この建築の有する価値は次の3点に集約できる。

- ①使用されている木材の質が極めて高く、仕上げも入念である。
- ②各部の意匠は通り一遍でなく、十分な手間がかけられ、随所に凝った意匠を展開している。
- ③近世以来の伝統的な農家の間取である六間取を基本にしながら、本格的な二階座敷を持





は格天井で、御影石の腰積みに黒漆喰の壁、洗面所境は黒漆塗りの花頭形に、蝶の模様をあしらった磨硝子の窓をはめる。便所や手水場も並みの作りではない。そして広い土間の床は研出で、一部にタイルを市松模様に貼る。なお、一階は天井高が10尺と高く、内法に長押をまわすが、2階は7尺余しかなく、長押はまわさない。しかし数寄屋風ではない。

以上のように、当建築は文化財に指定し、永らく市民の財産として保存されるべき十分な価値を有するものと思われる。また、このたびの寄稿にあた

ち、しかもこの時期には珍しかったであろう瓦葺とするなど、時代の転換期の先端的な様式を併せ持っている。

まず①に関しては、二階座敷の天井に3尺幅の神代杉等の銘木を用い、また土間境の楠木1枚板の杉戸など、銘木の使用は枚挙に遑がない。そして柱や縁側の床板には漆がかけられ、一階前側客座敷の天井格縁も黒漆塗りである。主要な部屋は色違いの砂壁とする。

②に関しては、まず色ガラスを含む、ふんだんなガラスの使用があげられる。特に二階座敷妻側の縁側窓に使われた、赤色ガラスの市松模様は斬新である。欄間の彫刻や細工、二階表縁側窓台下の、嵌殺しガラスの枠まわり細工、玄関小縁と縁側境の小窓枠まわりも見応えがある。また、後の増築と思われる洗面所や浴室にも凝った意匠を展開する。浴室

っては、民家に詳しい東京工芸大学・清水擴教授による調査報告を引用させていただきました事、心より感謝申し上げます。



◆厚木市 古民家岸邸

所在地：厚木市上荻野792-2

TEL046-291-0201

開館時間：午前9時～午後6時

(10月～3月は午後5時まで)

入館料：無料（但し、電話連絡の上での見学をおすすめします。）

アクセス：小田急線本厚木駅より「上荻野車庫」「半原」行きバスで約40分

今我々にできることは・・・。

～ひまわり～

相模原支部 竹尾 秀一



今さらではありますが、「今自分に出来ることは」の思いが実らなかったなという話です。去年の震災で皆さんも色々な思いから行動されたことだと思います。私は震災後、すぐには行動することはできず、支援に行かれた方の応援しかできませんでした。手回しの発電機能付き懐中電灯兼ラジオ兼携帯充電器を集め、被災地に持ち込んで頂きました。その後、7

月には何人かの友人たちと相馬市に行き、支援物資を届けました。震災後3か月が過ぎた頃「ひまわりで福島農地再生！福島ひまわり里親プロジェクト」（放射性物質を吸収するといわれているひまわりについてのメディア情報）を聞きました。福島原発の放射能汚染の除染を少しでもお手伝いが出来ればとの思いで即行動を起こしました。相模原市緑区の農家の方に事情を説明し農地をお借りし、さらにその農家の方は300坪の畑をトラクターで耕し種まきができる状態にして下さいました。7月夏の暑い時期で、一週間もすると種は発芽しましたが、雑草も生えてきて草むしりが大変でしたが友人たちが応援に来てくれました。種まきから開花まで60日位ひまわりは順調に育っていましたが、9月の台風15号の影響でひまわりが倒れてしまいました。それでもなんとか種取伐採に入りました。おかげ様で大小合わせて600個くらいの花を収穫し多くの方たちに手助けしていただいて、種取をすることができました。そして3日間乾燥させ、その種は7箱にもなりました。

ところが、9月14日農水省が「ひまわりの放射能除去効果は無し」と発表し、私は大変ショックを受けました。しかし、種の里親になった方は全国で数万人、蒔かれた種子は80万粒、集まった種は10トン。それは種の里親と福島の絆でした。

福島ひまわり里親プロジェクトの代表半田正仁さんはめげてはいませんでした。2012年、福島を金色にしますとおっしゃっています。ひまわりは「希望のチカラ」としてJNN東北スペシャル2011.12.17「福島発ひまわりに込めた想い」が配信されました。全国の里親の方々も益々元気を頂いたと思います。そして今は決して思いが実らなかったわけではないと思えます。

前に！未来に！自分に出来ることをしていきます。ひまわりの里親に関わりましたこと感謝申し上げます。



今我々にできることは・・・。

～東日本大震災支援活動二例～

横浜支部 高橋 保博

東日本大震災で義捐金を送ったり、現地に赴いてボランティア活動に参加したりした人々は多数いると思います。今回二つの支援事例を紹介いたします。

一つ目は「たすきプロジェクト」です。阪神淡路大震災の教訓を元に「本当に必要なものを、必要とする人に送る」プロジェクトです。性別と、ある年代を想定して、必要と思われる品物をパックにして送ります。神戸の方が被災時に生活に必要な品を集めるのに苦労した経験からこのプロジェクトが立ち上げられました。下の画像は一つのパックの例です。女性で60歳くらいを想定しました。

◇ホームページ <http://www.tasuki-projekt.jp>



洗面用具、靴、ポシェット、下着、靴下、除菌グッズ、マスク等

二つ目は「にゃんこ・ザ・プロジェクト」です。宮城県石巻市の沖合に「猫の島」としてメディアによく紹介された田代島があります。島民と猫が共生していて、幸せそうな姿が報道されていました。そこに津波が襲いました。人的な被害は行方不明者が1名でした。猫は9割が無事でした。しかし、島の主要産業の牡蠣の養殖は壊滅的な被害を受けました。島の人々は復興を目的として一口支援基金を立ち上げました。一口一万円で1500口を募集しました。島の産業が復興したら特産の牡蠣を発送するという基金です。目標はわずか三カ月で達成されました。現在は募集していません。償還には3～4年にかかるということですが、人々の善意が結集しています。

◇ホームページ <http://nyanpro.com/>



～歴史的建造物を訪れて～

Vol.50

アールデコの館、旧朝香宮邸を訪ねて－東京都庭園美術館－

川崎支部 恩田 耕爾



正面ファサード



朝香宮妃肖像画

朝香宮邸は香淳皇后の叔父にあたる朝香宮鳩彦王が1947年皇室離脱まで暮らした邸宅でした。その後、建物は吉田茂の外務大臣公邸（昭和23年～29年）として使用され、国賓来日の際の迎賓館（白金迎賓館：昭和30年～49年）として、また西武鉄道の白金プリンス迎賓館（昭和50年～56年）と使用され、現在は東京都の管理下で「東京都庭園美術館」として一般公開されています。1933年に完成した、ヨーロッパの装飾美術であるアールデコ様式の粋を尽くした建物です。建築設計は宮内省匠寮工務課（基本設計：権藤要吉）がまとめ、内装デザインはフランスのインテリアデザイナー、アンリ・ラパンが担当し、ラパンのパ

リでの仲間の宝飾デザイナー、ルネ・ラリックの作品も多く見られます。正面玄関の女神像のガラスレリーフ、大広間のシャンデリアなどの力作が見られます。床、壁、天井、家具、内部装飾そのものが芸術品として高い質を保持しています。世界的に見ても大変素晴らしい価値ある建築物と思えます。この建物の鑑賞ではアールデコ様式の2つの対照的なデザインの傾向を見ることが出来ます。クラシック（古典派）とモダン（近代派）で「クラシック」は豪華で装飾性の高いデザインで「モダン」は装飾を簡素化し、構成的なフォルムの美しさを追求するものでした。妃殿下は「クラシック」を好み、殿下は「モダン」を好まれた



玄関ガラス扉（ルネ・ラリック）



大客室（天井照明はルネ・ラリック）



「次室」の噴水塔（香水塔）



緑の大理石壁の浴室

ようで一つ建築物にそれが同時にこの建物では楽しめます。1階には玄関にルネ・ラリックのガラスレリーフから大客室、大食堂など優美な「クラシック」デザインが楽しめます。2階部分は宮内省匠寮の技師による「モダン」のデザインが楽しめます。建物外観はシンプルで簡素ですが、内部のインテリアは装飾性豊かな内部空間が展開され、その建築物の施主の思いの強さ、そしてデザイナー達の芸術に対する執拗な意気込みが内部空間を歩く中で随所に感じられます。見学に疲れたあとは外部の西洋庭園と日本庭園が楽しめます。芝生広場の椅子に座りながら改めて、照明のついた建物を楽しむことが出来ます。朝香宮がパリでのアールデコの博覧会に刺激され、5年後には自邸を時代の時代の先端を行く様式・デザインで築造した建築物で当時の一流デザイナー

をパリから呼んで作り上げたものです。室内装飾を担当したアンリ・ルパン、ガラスの玄関扉、シャンデリアなどのデザインをしたルネ・ラリックなど宮内省匠寮の技師達も含め、大いに建築とデザインを楽しんだ様子が読み取れます。

※宮内省匠寮が手掛けた建築物で現存するのは他に赤坂離宮、東京国立博物館などが挙げられます。

※アールデコ：1925年パリで開催された「装飾美術・産業美術国際博覧会」（Exposition Internationale des Arts Decoratifs et Industriels Modernes）の略称を由来する名称でフランスを中心にヨーロッパ中心に工芸・建築・絵画・ファッションに普及した装飾様式の総称。



食堂の照明器具



熱帯魚のラジエーターカバー

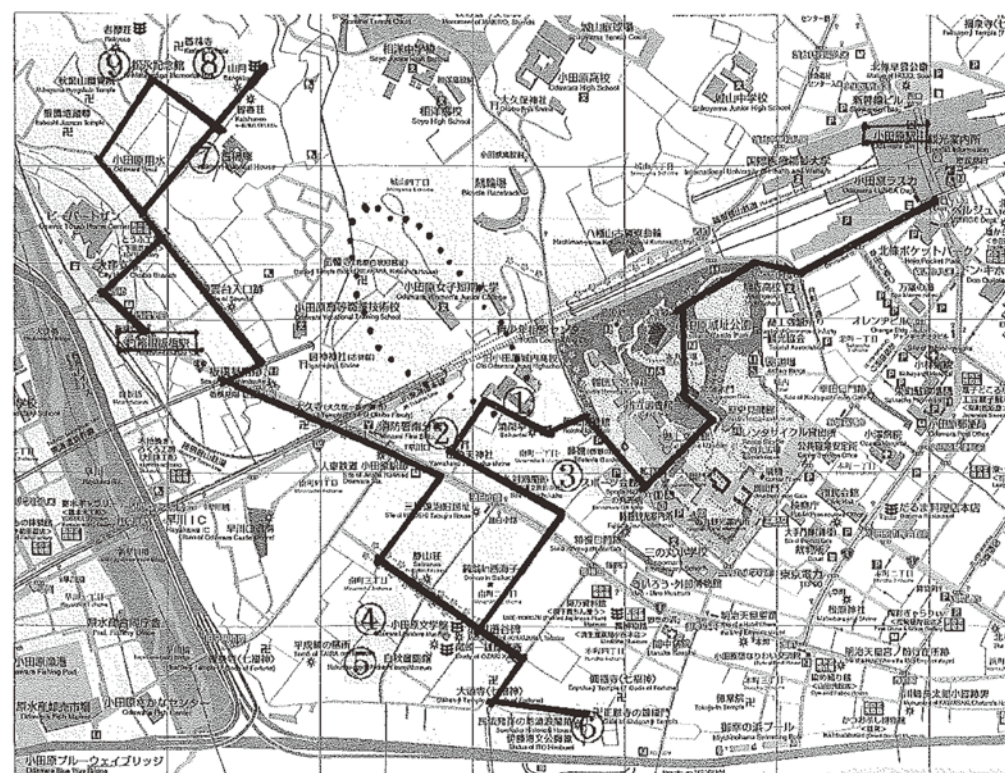
出発：小田原駅

作成：県西支部 芝 京子

町並み散策ぶらり in 神奈川

近代日本黎明期の偉人達
～小田原市周辺～

かつて小田原に近代日本の礎を築いた人々が居を構えていた。維新後の日本に民主主義を根付かせた政治家、国防に生涯を捧げた軍人、さりげない自然の営みを詠んだ詩人、文化人、風流を極め人々をもてなした茶人、経済人。誰もがこの地の温暖な気候風土を愛し、上質な生活を営んだ。いつの時代にも数多くの物語があるこの小田原。その物語に思いを馳せ、人物ゆかりのこの地をゆっくりと歩いてください。



1 清閑邸(南町一丁目)

黒田 長茂 くろだ ながしげ



(写真提供 国立国会図書館)

貴族院副議長として30年間勤務。国登録有形文化財。対潮閣と閑院宮御別邸の中間に隣接した現在、NPO法人が周辺地域の邸園交流の拠点として活用している。
1906年(明治39年)建築



2 山角天神社(南町一丁目)

瓜生坂(南町一丁目)

うりう そときち



(写真提供 瓜生家)

秋山真之らとともに日露戦争に参戦。境内に、瓜生の胸像が立つ。
瓜生邸に通じた坂道が現在も残る。



5 白秋童謡館(南町二丁目)

田中 光顕 たなか みつあき



(写真提供 多摩市教育委員会)

現小田原文学館に隣接する大正モダン調の和風建築。田中光顕の別邸として建てられた。
1924年(大正13年)建築



6 滄浪閣跡(本町四丁目)

伊藤 博文 いとう ひろぶみ



(写真提供 国立国会図書館)

小田原で民法を起草。伊藤が穂積陳重らと民法を起草したこと、民法発祥の地とされる。
建物は小田原海嘯で流失した(明治35年)現在、民地内に胸像が立つ。
1890年(明治23年)建築

9 松永記念館(板橋)

松永 安左エ門 まつながやすざえもん



電力王と呼ばれた茶人松永が収集した古美術品を一般公開するために財団法人を創立して記念館を建設。のちに敷地と建物は市に寄付された。
居宅・老樗荘は国登録有形文化財
1959年(昭和34年)建築

参考 閑院宮御別邸後(南町一丁目)

閑院宮載仁親王

かんいんのみやことひとしんのう



御別邸は旧小田原城内高校からアジアセンター跡地にかけての広大な敷地を有していた。(点線部分)閑院宮載仁親王は日露戦争で秋山良古とともに騎兵旅団を率いた。

自身の童謡作品のうち約半数を小田原で創作した国民的詩人・童謡作家

きたはら はくしゅう

北原 白秋 1885年-1942年

伝肇寺境内・「木兎の家」跡(城山四丁目)

白秋の自宅は、関東大震災で半壊した。今は、白秋が心ひかれた梅の老樹と榎(かや)の大樹、「赤い鳥小鳥」の碑などが、わずかなよすがとなっている。



1400m 200m 60m 500m 400m 2350m 300m 190m 650m
小田原駅 ⇒ ① ⇒ ② ⇒ ③ ⇒ ④ ⑤ ⇒ ⑥ ⇒ ⑦ ⇒ ⑧ ⇒ ⑨ ⇒ 箱根板橋駅
20分 6分 1分 8分 5分 35分 1分 3分 10分

4 小田原文学館(南町二丁目)

田中 光顕 たなか みつあき

龍馬暗殺現場に駆けつけた幕末の志士。昭和12年建築の洋館は、当時流行した南欧風の建築。



8 山月(板橋)

大倉 喜八郎 おおくらきはちろう



旧大倉男爵別邸。大正9年大倉財閥設立者の避暑のための別荘として建造され、現在料理店として活用されている。



到着：箱根板橋駅

●見学時間は含みません。

あくまで参考です。

約1時間30分 距離5.78km